

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	地域密着型サービス事業所としての4つの理念を作りあげている。	毎朝出勤している職員で理念を復唱している。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	管理者と職員は常に理念を共有し実践に取り組んでいる。	毎日理念を復唱することで全職員、地域密着型サービス事業所としての社会的責任や役割をきちんと把握できている。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	理念作りを運営推進会議のメンバーと一緒に考える機会を設けた。又、運営推進会議で事業所や利用者が地域と係わり続け生活する事の大切さを参加メンバーに理解してもらい話し合う機会を設けている。	理念を玄関先、食堂に掲げている。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	気軽に立ち寄ってもらうような、日常的な付き合いはほとんど出来ていないが、散歩等道ですれ違う時はあいさつするよう努めている。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	利用者、職員が地域交流できる機会を見出し地域の人々と交流することが出来るよう努めている。	ふれあい祭、地域の祭りに参加している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議にて事業所が地域に貢献できることはないか話し合い、取り組んでいる。		グループホームで植えた花を利用している、美容室に飾ってもらっている。 地域の公園の掃除を計画していたが、利用者の心身の状態の低下もあり、1回の実施で終わっている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員、自己評価、外部評価の意義を理解し改善に取り組んでいる。		外部評価後の職員会議で外部評価の結果を報告し、職員間で改善点など話し合うようにしている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議題で取り上げ参加メンバーに自己評価、外部評価の結果報告を行っている。		改善点等参加メンバーで話し合い、意見をサービス向上に反映するよう努めている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	不明な点や分からない事がある場合、電話で相談したりしている。		運営推進会議に市役所の職員にも参加してもらっているので、なじみの関係が築けており気軽に相談できる環境がある。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	運営推進会議の議題で取り上げ、社会福祉協議会の職員等に話をしてもらおう機会をもうけ、家族、職員が権利擁護に関して共通理解が出来るよう努めている。	○	現在当グループホームにこれらの制度を活用する必要がある利用者は入所していない。活用の必要性がある場合支援していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待等ないように職員同士で注意し合って、ケアに臨んでいる。	○	研修参加の機会をもうけ、全職員に報告、勉強会等行い、虐待の防止に関して、共通理解を深めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分に説明行った上で、家族や利用者納得できるよう契約を行っている。不安、疑問点ある場合は、都度説明している。	契約前から料金やグループホームの意義等十分に説明行っている。又契約前に必ず利用者、家族に当グループホームを見学してもらっている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	なかなか利用者より、意見、不満、苦情など出ないのが現状である。	介護相談員の方に訪問して頂き、利用者と話をしてもらい、利用者の意見苦情等聞いてもらっている。また、相談員の方のアドバイスや意見等も運営に反映させている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時必ず利用者のグループホームでの生活、健康状態、心身の変化等説明行っている。体調優れない状態が続く場合、家族に電話連絡し報告行っている。	お金を預かっている利用者は、出納帳にて管理、家族面会時に収支報告行いサインをもらうようにしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見や改善して欲しい点、不満等を述べてもらう機会を設けている。また、介護計画作成時にも家族の意見、要望、不満等聞くようにしている。	玄関に意見箱を設置している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で出た意見、提案等改善可能なものは、柔軟に対応し職員の意見が反映するよう努めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者に十分目が届くように、忙しい時間帯に職員が配置されるよう努めている。	行事によって、その日、その時間帯に職員が手厚く配置されるようにしている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1ユニットのため事業所内での移動は無い。職員の離職等最小限になるよう職員が働きやすい環境作りに努めている。	職員やパート職員を十分に確保し職員が業務負担を感じることなく、利用者へ質の高いケアが出来るよう努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>経験年数等考慮しながら、研修参加の機会の確保に努めている。</p>	<p>受講したい研修があれば勤務に支障が無い限り、自由に参加できる。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>特に実施していない。</p>	<p>空き部屋の状況等の情報交換は行っている。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>仕事上の悩みは職員会議で聞くようにしている。個人的な相談は直接相談するよう伝えている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>利用者に対する言葉掛けや接し方等見ながら職員の日々の努力や実績の把握に努めている。</p>	<p>受講したい研修、ケアマネージャ等の資格取得を呼びかけ向上心が持てるよう努めている。</p>
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談から入所まで、利用者がどんな生活を望んでいるのか、入所するにあたってどんな不安を抱えているのか、ゆっくり話をする機会を作るよう努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談から入所に至るまで家族とゆっくり面談し、どのような要望、希望を持っているのか話を聴く機会を設けている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった場合、利用者の心身状態や相談者の困っていることを的確に把握し、本人とその家族が必要とするサービスが受けれるよう支援している。		当ホームが満所の場合、他施設への紹介を行う
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に何度か本人に来て頂き、本人が納得し、安心して入所できるよう、家族とも相談しながら、段階的にサービスを開始している。		利用者本人がグループホームがどういう所なのか理解できるよう契約前に宿泊体験等も出来るよう柔軟な対応をしている。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりが主役になれる場、機会を提供し、喜怒哀楽を自由に表現できる暮らしが送れるよう支援している。		理念にも掲げているように喜びや悲しみを共有する事や人生の先輩という尊敬の念を持ちながら、接するよう心掛けています。また、職員は利用者から生活の知恵、昔ながらの慣わし、物を大切にすること、方言等いろんな事を学んでいます。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会の際は、できるだけ日常の様子や良い事悪いこと、共に笑ったこと等含めて話す機会を持つようになっている。また、そうすることにより家族より利用者の昔の事が聞ける機会も増え、利用者のケアに活かせる事ができる。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者との関係把握に努めより良い関係が築けるよう支援している。ホームで地域の行事等に参加する時は、家族に参加を呼びかけ、利用者と一緒に過ごせる機会を設けている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人知人等の面会ある場合は、居室でゆっくり過ごしてもらい、気軽に遊びに来れる雰囲気作りに努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間の人間関係を日頃より正確に把握し、人と交わる事が苦手な利用者には、職員が仲介役となり、他の利用者とのコミュニケーションが取れるよう努めている。		利用者同士で、下膳出来ない利用者のお膳を出せる利用者が手伝ったり、足の悪い利用者の椅子をひたり、席を譲ったり、利用者間の支えあい、助け合いの風景が見られる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後、特に継続的な関わりは、行っていない。	○	必要があるケースの場合は、継続的な関わりを持って行きたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員一人ひとりが、利用者の毎日のくらしぶりや利用者との会話の中から意向の把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際家族や利用者より話を聴き、又ホームで生活していく中で本人から話を引き出したり、家族と徐々に信頼関係を築いていき、面会時に情報が得られるよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員一人ひとりが利用者の心身状態、能力等見極めケアを行っており、変化ある場合は、意見を出し総合的な把握が出来るように努めている。		利用者の持っている能力を的確に把握し、できる事は自分で行うよう働きかけている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議に家族を交えての話し合いは行っていないが、介護計画を立てた後で家族又は、利用者に説明を行い同意を得ている。		介護計画を立てる前に、家族または、利用者にはホームにどのような事を望むか、ホームでどのような生活を送りたいか等話を聞いている。介護計画に同意が得られない場合は、即座に介護計画の建て直しを行う。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	おおむね6ヶ月に1回介護計画の見直しを行う。また、心身の状態に変化見られる場合は、その都度介護計画の見直しを行うよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報が共有できるように、毎日の利用者の様子や介護計画に基づいた事をケース記録に記載し、介護計画の作成や見直しに活かしている。		一ヶ月に一回モニタリングを行い介護計画の見直しに活用している。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて柔軟な対応、支援を行っている。		家族が遠方の利用者也入所しているので、ゆっくり過ごせるように家族が自由に利用者の部屋に宿泊できるようにしている。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者の意向や必要に応じて、地域資源を活用しながら地域に密着した生活が出来るよう努めている。		誕生会等の行事にボランティアの方に来て頂いている。また、エスケープ等の場合に備えて近くの交番に協力をお願いしている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者が、地域交流できる機会を見出すよう努めている。また、家族や利用者本人が他のサービス活用を望む場合は他のサービス事業所と十分話し合い、望むサービスが受けられるよう支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	特に地域包括支援センターとは協働していないが、必要に応じた情報が得られるよう挨拶には足を運んでいる。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族は希望するかかりつけ医を自由に選択でき、適切な医療が受けられるよう支援している。		ホームに併設している病院を希望される場合、二週間に一回主治医の診察を受けている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	わからないことや、困った事ある場合は、併設する病院の医師に気軽に相談でき、利用者が適切に認知症に関する診断や治療を受けられる。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設している病院の看護師に気軽に相談できる環境にある。		利用者の急変時や怪我した場合、迅速に治療や処置を受けられる。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した場合、病院関係者や家族から利用者の病状や心身の状態の情報もらい、早期退院できるよう努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の方針として最後の看取りまで行わないが、入所の段階で家族に説明と同意を得ている。また、状態悪化した場合の話も主治医を交えて家族と話しをする機会を設けている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所の方針として最後の看取りまで行わないが、利用者の身体機能や認知の状態に変化ある場合は、家族の意向も含め主治医や職員で検討するよう努めている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退所前には家族、利用者ともに十分に話し合い、関係機関とも十分な情報交換を行い住み替えによるダメージを防ぐよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりの生きてきた背景や、性格、個性を把握し、利用者の誇りやプライバシーを損なわない言葉掛けを心掛けている。	○ 職員間でいつでも利用者に対する言葉使いや接し方を注意し合える環境を作っていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	利用者とかかわる時間を多く持ち言いたい事、要望を聞き、利用者の希望に沿った生活が送れるよう支援している。	食堂席は基本的に自由席にしているので、利用者が座りたい席を自由に選べる。また、また、お茶や食事の時間は、職員も一緒に席につき、ゆっくり話をする時間をもうけている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の流れは、一応決まっているが、、利用者一人ひとりのペースにあわせ無理強いする事無く、希望に沿った生活が送れるよう支援している。	起床、食事、入浴、レクリエーション等の参加の声掛けは行うが、拒否ある場合は利用者の意思に任せている。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	定期的に近く的美容室に出かけ、理容、美容室の指定がある場合は家族の協力をもらい希望する所へ出かけている。	ホームが利用している美容室は認知症のことをよく理解してくださっており、職員が付き添わなくても散髪が終わったら連絡を下さり、迎えに行くとう形をとっている。利用者もいつもと違う雰囲気や、地域住民との交流を楽しんでいる。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食後の下膳、台拭き、茶碗拭き等出来る利用者に行ってもらっている。	利用者の心身状況、健康状態に応じて、食器や食材の大きさに配慮し安全で楽しい食事が出来るよう支援している。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の希望がある場合いつでも楽しめるよう支援している。タバコは火災の事を考えて禁煙にしている。飲酒は、時折、夕食時にビールやホームで作った梅酒を出している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定期的に、トイレ声掛け、誘導行い排泄の失敗が減少するよう努めている。		尿意便意の訴えない利用者に対し、排泄チェック表でチェックし、排泄の間隔を職員間で把握し失禁をなくすよう心掛けている。また、便が出にくい時は、主治医にすぐ相談できる環境にある。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日や時間は決まっているが拒否ある場合は無理強いないせよ本人の意思に任せている。また、利用者の好みの温度や時間は、体調に注意しながら、本人の希望を重視し、利用者のペースで入浴を楽しんでもらっている。		各居室に浴室があり、くつろいで入浴が出来プライバシーに配慮した入浴が行える。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	寝具は本人が使いやすい物を持ってきて来てもらい気持ちよく休息や安眠が保たれるよう支援している。また、利用者が休息したい時は、本人の意思を重視している。		季節の変わり目には、家族に寝具の入れ替えをお願いしている。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりに合った役割を決め、日々の生活に張りをもち、喜びを感じられるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望ある場合やちょっとした日用品は職員と一緒に出かけ、買い物の支援をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日は散歩に出かけたり、敷地内にある駐車場にて日向ぼっこや歩行訓練行っている。また、外に出たいと訴えある場合は出かけ気分転換やストレス発散ができるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見、外食、地域の祭りに参加してりしている。	○	家族と一緒に外食に出かけたり、行きつけの美容室にパーマをかけに行ったり、墓参りに出かけたりする。行事の際は、家族参加を呼びかけ、利用者や家族と一緒に過ごせる機会を多く作っていききたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人宛にきた手紙は本人に開封し、読めない場合は、代読し知らせている。また、電話はかかって来た時に本人に直接会話してもらい、聞き取りにくい場合本人に伝達している。電話をかけたい利用者は都度対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問者が気軽に訪問できるように、利用者の季節の作品や写真を展示するなどして、明るいホーム作りに努めている。また、食堂や居室でゆっくり過ごせるよう、お茶など進め、家庭的雰囲気作りに努めている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束についての研修を受け、心身ともに拘束を行ってはならない事を理解している。		
66	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員鍵をかけないケアへの理解は出来ているが、利用者の心身の状態によっては、鍵をせざるを得ないことが多い。	○	外に出たいと希望がある場合は職員と一緒に外出するが、出来るだけ日中、鍵をかけない時間を少しでも作る努力をしていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に利用者が安全に生活出来ているか気を配り自室で過ごす時間が長い利用者には、定期的に訪室し声掛け安否の確認を行っている。		入浴、トイレは各居室に完備しており、羞恥心やプライバシーに配慮したケアを行っている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物品の管理は家族よりホーム側が行って欲しいという要望がある場合はホームで行っている。	○	9名中4名がホーム側で管理しており、利用者の心身状態に応じて、一律に物品をなくさないよう取り組んでいきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒防止の為毎日の体操やレク等で筋力低下防止に努め、転倒の危険性のある利用者は、見守り、手引き歩行行い状態に応じた対応をしている。また窒息防止のため、食事の工夫、見守り行い対応。誤薬の無いようチェック表を作成している。行方不明や災害時は、どこに連絡をし、どこに避難すればいいのか全職員把握している。		利用者の転倒その他の事故等あった場合は、事故報告を行い再発防止に努めている。職員会議等で話し合い事故の要因を考え、それらをマニュアル化するようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	冷静に判断出来るようマニュアル作成し、対応している。また、急変時は、併設する病院の医師、看護婦に指示を仰いでいる。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時に備えマニュアルを作成し、火災、地震、水害時など状況に応じた対応をするようにしている。	○	水、食料の備蓄、ガスコンロやラジオなどそろえ、災害時に備えている。まわりに住民少なく、なかなか協力を得られない環境であるが、少しずつでも協力が得られるよう働きかけていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	健康状態から見たリスクや、ADLの状態から見た起こりうる危険については、都度家族に説明し、全職員が利用者が安全かつ快適に生活出来るよう		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は、日々の利用者の変化を見逃さないよう、食事の摂取量や排泄の記録からも変化の把握に努めている。		利用者に少しでも体調の変化や異変を感じた時は、日誌、ケース記録、申し送りに記録し、職員間で情報が共有できるようにしている。また、口頭で伝えることも毎日行っている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、利用者が服薬している薬について理解しており、症状の変化確認に努めている。		毎日の服薬を服薬チェック表にて管理し、飲み間違いや飲み忘れないよう努めている。また、症状等に変化がある場合はすぐに主治医に相談できる環境がある。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給を十分に行い、適宜に運動を行っている。また献立にも工夫をしている。		麦ご飯、牛乳、ヨーグルト、イモ類を取り入れ便秘予防に努めている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、うがい義歯の洗浄を行い口腔内の清潔保持に努めている。		夕食後は義歯をポリドントにつけ清潔保持に努めている。また、うがいは、風邪予防の為お茶で行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	活動状況、年齢、体重の増減見ながら、摂取量を調整している。水分は、毎食時、10時、15時、入浴後等に湯呑みで1～3杯飲んでいるので、十分な水分摂取が出来ている。		お茶をあまり好まない利用者に対しては、コーヒーや牛乳、スポーツ飲料水等で対応し十分な水分が取れるよう注意している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	各感染症のマニュアルを作成し職員に配布している。		感染症予防の為、手洗いの励行、アルコール消毒の徹底を行っている。また、排泄介助、爪きり、口腔ケア等行う時は手袋を着用するようにしている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は使用する前に熱湯消毒して使用している。買い物は、週2回行き、食材は新鮮で、ほとんど国産を使用し、安全な食材選びに努めている。		毎食後、まな板、フキンはハイター消毒を行い衛生管理に努めている。食材は賞味期限を確認し使用するようになっている。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の外には手すりが設置されているが、傾斜があり危険なので必ず介助を行い安全に出入りが出来るようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や廊下に時季の花々を飾ったり、四季に応じた壁画を作成し、季節感を感じられるよう工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階、2階にソファがあり、1人で過ごしたり、利用者同士で談話する空間がある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	危険の無い範囲で使い慣れた寝具や生活用品を自由に持 ち込んでもらい、安心して過ごせるようにしている。		テレビ、椅子、使い慣れた布団、ベット等慣れ親しんだ物 を使用してもらっている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	居室のこまめに行っている。また、空調は職員が温度調節を 行っている。		居室の喚起は、食事中など利用者が食堂で過ごしている 間に行うように配慮している。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	居室は、利用者が身体の状態によって使いやすいように工 夫をし、身体機能を活かして安全に自立した生活が送れるよ うな環境作りに努めている。		居室の畳とフローアの段差解消や、身体機能の状態により 手すりを設置したりしている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	利用者の一人ひとりの、理解力や出来ること出来ない事を正 確に把握し、出来る事をしてもらい、自信回復と自立した生 活が送れるよう支援している。		各利用者がグループホームでの役割をもち、利用者が得 意とする分野で力が発揮できるように努めている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	構造上ベランダはないが、ホーム周辺にプランターや花鉢を 使用し園芸が楽しめるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎日の生活の中でレクレーションを取り入れ、壁面作成やゲームなど実施し利用者が楽しい一日を過ごせるよう努めている。また、利用者の誕生会や行事等に力を入れ、ボランティアを呼んだり、利用者の好みの食事を取り入れ楽しい時間が過ごせるよう努めている。